**鷲田清一『わかりやすいはわかりにくい？』ワークシート**

キーワード　漢字二字

必死と同意

**ひとは自分が責められないようにあらかじめ手を打つことに「　　　」になる。**

⑥段落から患者の気持ちを探す

**ゲームのキャラクター

低い精度で自動的に生成された説明**

**クレーマーたち**

**他者の責任を問い詰めるが**

**受け身の要求であることに**

**気づいていない。**

**すぐに答えを求める気の**

**短さと**

**「**

**ことから逃れて楽になりたい」という気持ち。**

**ロゴ

自動的に生成された説明**

**役人の逃げ**

**「　　　　　　　　　　」**

設計図 が含まれている画像

自動的に生成された説明

**香山リカの患者**

**「うつ病だと書いてほしい」**

言い訳

**「病気じゃない」と言われても**

**納得しない**

**なぜか。**

**「ただのうつ気分」→自分**

**で取り組まなければいけない**

繰り返し使われる言葉

**「うつ病」→「お任せします」**

**と言えば済む**

**「　　　　」の立場で手当てされ**

**たい**

**多くのひとが、自分のこの**

**鬱ぎを説明してくれる「物語」**

**があればすぐにそれに飛びつく。**

**（問一）**

**自分の鬱ぎが病気に起因する、過去**

**に受けたひどい仕打ちに起因すると**

**考えれば（　　　　　　　　　　　　　　）。**

**「悪いのはわたしではない」のだから。**

**この三つ、見ようによってはほとんど同じ**

計画・企て

左図がヒント（何度も出てくる言葉）

「 Ｘ　......」（問二）と言いうるポジションをとろうというである。

「**責任**」というこの言葉、

英語ではリスポンシビリテ(responsibility)である。

この語には、日本語の「**責任**」という言葉からは感じられない。

独特の含意がある（問三）

他者からの求めや訴えに応じる用意がある

 表面に現れない**意味**を含みもつこと。



考えようによっては

筆者は阪神淡路大震災をきっかけにこの文章を書いた（日本人の意識の変化に気づく）

阪神淡路大震災のあと、空前のヴォランティア・ブームが起こった

ときにひとびとがとっさに抱いたのは、この、

いま「　　　　　　　　　　　　　　　　　」という感覚ではなかったのか

誰かから呼びかけられているという含みはない　五字

他者からの呼びかけに応える

他とは違うこの<顔>として認められ（問四）⇔（　　　　　　　）

たどたどしいけれどもまぎれもなくこのわたしの言葉で話すことができる。

カタカナ

そのとき、ひとびとがもしその動機を訊かれたら「　　　　　　　　　　　　」という言葉に対応する言葉が日本語にあれば、きっとそれで表現したことだろう。

ここは例示

名ざしで呼びだされている者としての自分を意識するということには、けっこう危うい面がある。自分を他に優って嘱望された人間、つまりは

「　　　　　　　　」(選良)と考えてうぬぼれてしまう。逆に、つねに他人による評価と称賛を求め、ときに卑しいばかりに他人に取り入ろうとする。

エリートとは（**オルテガ＝イ＝ガセットによるエリートの定義）**

「自分を超え　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　というやむにやまれぬ必然性を内にもっている」ひと。

そういえば自らの務めを「公僕」と称した人たちがいた。

他人の分まで責任を引き受け、黙していっさい弁明しない、そんな政治家や経営者がそれである。ちなみにカントは「すべき」ことが「したい」ことであるという境位においてこそ、ひとは真の意味で幸福であるに値するものとなりうるという考えにいたりついた。

（統一する・まとめる）

ヴォランティアという活動には、多くの人を一つの目標へとする「べし」(原則にもとづく「　　　　　」)というものがない。

いま何が必要か、それを自分の「やりたい」ことのほうからではなく

「　　　　　　　　　　　　　」に応じて考え、そして動くということ

**矛盾しているように思われるかもしれないが**

## このことが逆説的に（問五）ひとを「　　　　　」でなくす。

「これ、わたしのではありません」というのではなく、

「これ、　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　」という感覚

以下の傍線部に対応している別の表現を探す

他者に認められる、ｅ他者の意識の宛て先に自分がなっているという感覚（問六）が、ひとを突き動かす一つの支えとなっている

**【要約の方法】**

**・各段落の要旨を捉えそれをつなぐ**

**・各段落が同じ重みを持つ訳ではないので重複している所を省略してまとめる**

**（注意）**

**・簡潔に。本文の用語を生かす。支障のない範囲で端的な言葉に置き換えてもよい**